

■ PCN だより

PCN Volume 70, Number 6 の紹介

Psychiatry and Clinical Neurosciences, 70 (6) には, Review Article が 1 本, Regular Article が 1 本掲載されている。国内からの論文は著者による日本語抄録を, 海外からの論文は PCN 編集委員会の監修による日本語抄録を紹介する。

(国内からの論文)

Regular Article

Three-year trend survey of psychological distress, post-traumatic stress, and problem drinking among residents in the evacuation zone after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident [The Fukushima Health Management Survey]

*M. Oe**, *S. Fujii*, *M. Maeda*, *M. Nagai*, *M. Harigane*, *I. Miura*, *H. Yabe*, *T. Ohira*, *H. Takahashi*, *Y. Suzuki*, *S. Yasumura* and *M. Abe*

*Department of Neuropsychiatry, Kurume University School of Medicine, Kurume, Japan

福島第一原発事故後の避難区域における住民の心理的苦痛, 心的外傷後ストレス, 問題飲酒に関する 3 年間のトレンド解析: 福島県県民健康調査

【目的】長期にわたる不安定な居住環境は, 震災被害にあった人々のメンタルヘルスに関する問題の深刻な増加をきたしうる。本研究の目的は, 原子力災害被害地域の成人住民におけるメンタルヘルスの長期的トレンドを調査することであった。【方法】郵送法で自記式質問票による調査を 3 回 (T1~T3) 行った。対象者は震災時に福島県内の避難地域として登録された市町村の全住民とした。K6 を用いた心理的苦痛リスク, PTSD チェックリストを用いた心的外傷後ストレスリスク, CAGE を用いた問題飲酒リスクについて, 性別ごとの年齢調整有病率を算出した。【結果】回答数と回答率は 73,568 名, 40.7% (T1); 55,076 名, 29.9% (T2); 46,386, 25.0% (T3) であった。K6 が 13 点以

上の割合は, 本邦での一般人口での割合 (4.7%) に比して高く, 3 年後であっても男性で 11.4%, 女性で 15.8% であった。心理的苦痛と心的外傷後ストレスの年齢調整有病率は年々減少していた [PTSD チェックリスト 44 点以上の割合は男性が 19.0% (T1), 17.8% (T3), 女性が 25.3% (T1), 23.3% (T3)] が, CAGE2 点以上の問題飲酒の年齢調整有病率は男性 [20.7% (T2), 20.4% (T3); $P=0.18$], 女性 [10.5% (T2), 10.5% (T3); $P=0.91$] とともに変化がなかった。【結論】本研究結果は, 災害被害者に対して, 心的外傷後ストレスや他のメンタルヘルスの問題に対する長期的な介入が強く求められていることを示唆している。

(海外からの論文)

Review Article

Biological aspects and candidate biomarkers for psychotic bipolar disorder: A systematic review

*M. Buoli**, *A. Caldiroli*, *C. C. Melter*, *M. Serati*, *J. de Nijs* and *A. C. Altamura*

*Department of Psychiatry, University of Milan, Fondazione IRCCS Ca' Granda, Ospedale Maggiore Policlinico, Milan, Italy

精神病的な双極性障害についての生物学的側面とバイオマーカー候補: 系統的レビュー

【目的】双極性障害のうち精神病的な双極性障害 (BD-P) は非精神病的な双極性障害 (BD-NP) よりも予後が不良で再発のリスクが高い。われわれは BD-P のバイオマーカー候補に関して入手可能な文献について, 系統的レビューを実施した。【方法】主要な精神医学データベース (PubMed, ISI Web of Knowledge, PsychInfo) を用い, 検索を行った。統合失調症/BD-NP/健常対照者 (HC) と比較した BD-P を主なトピックとしており, 1994~2015 年に発表された英語で書かれた原著論文のみを対象とした。【結果】BD-P 患者は

BD-NP/HC と比較し、脳脊髄液中のキヌレン酸値が高く、抗 *Saccharomyces cerevisiae* 抗体値の上昇、血漿中硫酸デヒドロエピアンドロステロンおよびプロゲステロン値の低下を示した。BD-NP と比較して、BD-P では事象関連電位の異常が認められた。また、BD-P 患者は BD-NP/HC と比較し、脳室が大きかったが、海馬体積は同様であった。結果は明らかな差異を示したが、一部の認知機能障害は、言語/論理的記憶、作業記憶、発語や意味の流暢性および実行機能障害などの双極性障害の精神病的側面に関連すると思われた。最後に、NRG1, 5HTTLPR, COMT, DAOA などの遺

伝子や染色体領域 (16p12 および 13q) の多型が BD-P と明らかに関連していた。【結論】BD-P に特異的なバイオマーカーの同定に関するデータは有用性が期待されるが、その多くはまだ再現されていない。これらのバイオマーカーは医師の早期診断や適切な治療を可能とし、BD-P の予後の改善や長期罹患に伴う生物学的変化の抑制につながると考えられる。今後、双極性障害の精神病的側面に対し、より特異的な生物学的マーカーを同定するには、さらに大きなサンプルによる研究が必要である。